

考工学

社会的背景

- ◆ 気候危機等、世界秩序の再編、情報社会の限界、パンデミック、etc.
- ◆ イデオロギーに強く支配されたこれまでの技術発展、研究開発に対する閉塞感、危機感
- 新しい発想を生む場を創成

研究者の動機

- ◆ ノートに記載されただけの失敗した(こぼれ落ちた)実験結果
- ◆ 遺産として扱われている古代建築物や遺品
- ◆ 忘れ去られた過去(ひと昔前)の技術や研究知見
- これらを拾い上げることで新しい視野が開けるのでは？

「考古学的な」研究アプローチ

研究分野の事情や開発された経緯、歴史的な統一性や連続性など、あらゆる先入観やイデオロギーを捨て、その事実そのものの意義、他との関係や派生を考察し、研究者自身が固有の研究対象を構築する



「言説」の発掘と「知の枠組み」の構築

考工学の手法

- 「忘れ去られた技術」を発掘
現在であるからこそ可能となる知の枠組(≡新しい価値)を創成
- 「枯れた技術」を発掘
ある分野で土着的なありふれた技術を分野横断的につなぎ合わせることで学際的な知の枠組を構築
- 「役に立たない技術」を発掘
純粋な「美しさ(真・善・美)」の観点から独自の知の枠組を抽出

- ・ 学際的論文のレビュー
- ・ 研究のアーカイブ化
- ・ あえて枯れた技術を掘り下げる
- ・ 今だからこそできる技術を活かす(例:数値シミュレーション)
- ・ 学内ワークショップ(異分野融合の場、若手/学生によるプレスト、etc.)

